

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

交尾★日記

無口なあの子は
ムチムチな僕の彼女

水面月



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

交尾★日記

無回なあの子は
ムチムチな僕の彼女

水面月



僕の彼女——文月詩織は
無口で引つ込み思案だ

ふみづき しおり

だからこんなことを
しても何も文句を
言ったりはしない

あ♡

とはいえ
嫌がつている
わけでもない

もにゅ♡

長く伸びた前髪
から僅かに
覗く瞳に艶めいた
輝きが宿る

ドキ

ドキ

それと同時に
彼女の身体から

むわぁ♡♡♡

発情した雌の香りが
ムワツと溢れだす

くちゅっ

その香りにあてられて
僕の興奮はさらに
高まっていく

ちゃっ♡
ふっ♡

ちゃっ♡
ふっ♡

はっ♡
ふっ♡

手のひらに
収まり切らないほどの
爆乳の感触を味わいながら

ぐっ♡

そうすると彼女の手が
すっかり張り詰めた
僕の股間をさすり始める

すわっ♡
すわっ♡

もう片方の手で
柔らかな尻肉も堪能する

ぐっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

それを合図と
するように

おはよう

僕たちは
身体を重ねた

あ、
♡



ムチムチなのは
膣内に蠢く壁肉も
同様だった

ぽっ♡

ぽっ♡

愛液をたっぷりと
含んだ無数の壁が
しゃぶりつく
ようにペニスに
絡みついてくる



言葉にはならない
彼女の嬌声に
僕の興奮をさらに
刺激され

グッ♡

グッ♡

グッ♡

腰を振る動きは
さらに激しさを増す

そうしているうちに
再び僕の手は
彼女の爆乳に伸びる

あっ♡

ググググ

するとその瞬間
膣内が激しく
締め付けられる

キュン♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

その刺激に
耐え切れず

あっ♡

ビクン♡

あっ♡

ビクン♡

ぐく♡

僕は彼女の膣内で
あっさりと
果ててしまった

ドクドク

ドクドク

それでも興奮は
収まることなく

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

張り詰めたままの
ペニスを再び
動かし始める

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

むっちりとした
お尻に腰を打ち付け

さらに潤いを増した
彼女の膣壁の感触を
存分に味わい尽くす

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ひととき大きな
快感が背筋を
駆け抜けた次の瞬間――

再び僕は彼女の奥深くに
濃厚な白濁を注ぎ込んでいた



心地いい疲労感を
感じながら息を
整えていると
彼女の膣内から
おびただしい量の
精液が溢れだしてきた

はー♡

はー♡

我ながらよくもまあ
あんなにも出したものだ
少し自分で自分に呆れた

ハハハ♡

スゲー♡

その日は両親が仕事で
遅くなるということ
僕たちは気兼ねなく
エッチができる状況を手に入れた

交尾★日記

無口なあの子は
ムチムチな僕の彼女

ちようど通販で昔の体操服を注文していたのでせっかくだし彼女にはそれを着てもらった

ドキ♡

臨場感を味わうために
少しでも二人で外を
走って汗をかいてきた

絶妙に交じり合あった
汗と彼女自身の香りが
妙にエロい

47♡

ドキ♡

47♡

以前はこんな恰好で
体育をしていたの
だから驚きだ

47♡

はー♡

それだけすっきり
大きくなっってしまった
ペニスを彼女の前に
突き出す

はー♡

それだけですぐに彼女は
僕がなにを求めているかを
察してくれた

ニギ♡

ニギ♡

ギョ♡

敏感な先端部分に
彼女の柔らかな唇の
感触が伝わる

ちゅ♡

舌の先で尿道付近を
舐められる感触が
たまらなく気持ちいい

ハッ♡

はっ♡

ハッ♡

れろ♡

はっ♡

ハッ♡

ジュボジュボと音を
立てながら次第に彼女は
ペニスを頼張ることに
夢中になっていく

じゅぽっ♡

じゅぽっ♡

そんな時

しゅぽっ♡

ふとフェラ
とは違う
水音に気付く

しゅぽっ♡

よく見ると彼女は
自分のアソコを
弄っていた

まわぁ...

しゅぽっ♡

グチャッ

しゅぽっ♡

ふたつの卑猥な水音が
ぐちゅぐちゅと響き渡る

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

汗の蒸気も入り交じり
部屋の湿度がさらに
上がっていくような気がした

そうになると
もっと過激な
刺激が欲しくなる

言葉に出す前に
彼女自身が
それを察してくれた

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

チラ..

特大のおっぱいの中に
僕のペニスが全て飲み込まれる

ドキ♡

ドキ♡

それは極上の
乳まんこだ

トッ

ド
エウ

おっ

膣とは違う
柔らかく
もっちりとした感触

はー♡

柔らかな圧迫感に
擦り上げられ
ペニスの先端から
先走りが滲み出るの
見えなくてもわかる

たぶん♡

はー♡

ふー

ふー

もにゅ

たぶん♡

ハッ

ハッ

はちゅ♡

潤滑油を得た
ことによって
動きはさらに激しくなり
僕の背筋は快感に
震え続け――

はちゅ♡

彼女の極上乳まんこの中で
その快感の塊を一気に破裂させた

あゝ♡
びゅるん♡

脈動を
繰り返しながら
精液を吐き出し
続ける間――

僕はムレムレで
ムチムチな爆乳の
感触を味わい続けた

もちろんこれで
終わりじゃない

♡ちゅ♡

今日はとことん
彼女にして
もらうことにした

大きく弾力のある
お尻を引き上げ

僕の上にまたがった
彼女の濡れそぼった膣は
そのままペニスを
奥深くまで飲み込む

あ

んんん

勢いよく
打ち下ろす

ズン

ズンッ!

はちゅ♡

食欲に何度もペニスを
咥えこもうとする腰使いは

引っ込み思案な
彼女の印象との
ギャップも相まって
より卑猥に映る

カホッ

カホッ

カホッ

ハッ

ハッ

ハッ

部屋中に満ちていく
汗や体液の淫臭

彼女の唇から
零れ落ちる
艶めいた吐息と嬌声

様々な感覚が刺激され
興奮はさらに高まっていく

まわぁ...

はぁ

あっ♡

ハッ

ハッ

ハッ

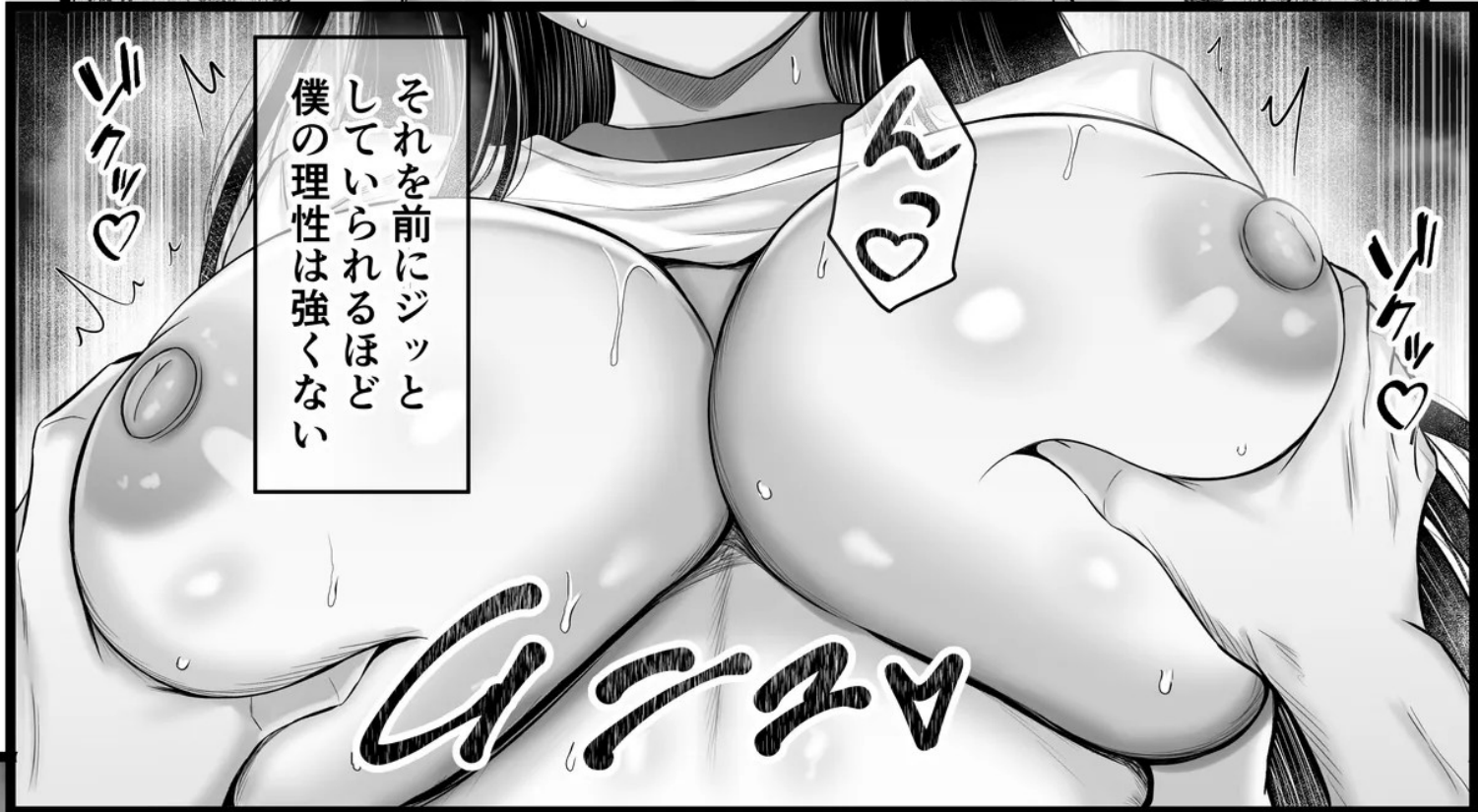
不意に彼女は背筋を
のけ反らせ潮を
まき散らしながら
全身を小刻みに震わせる

明らか絶頂を迎えながら
それでも腰の動きは
止まっていない

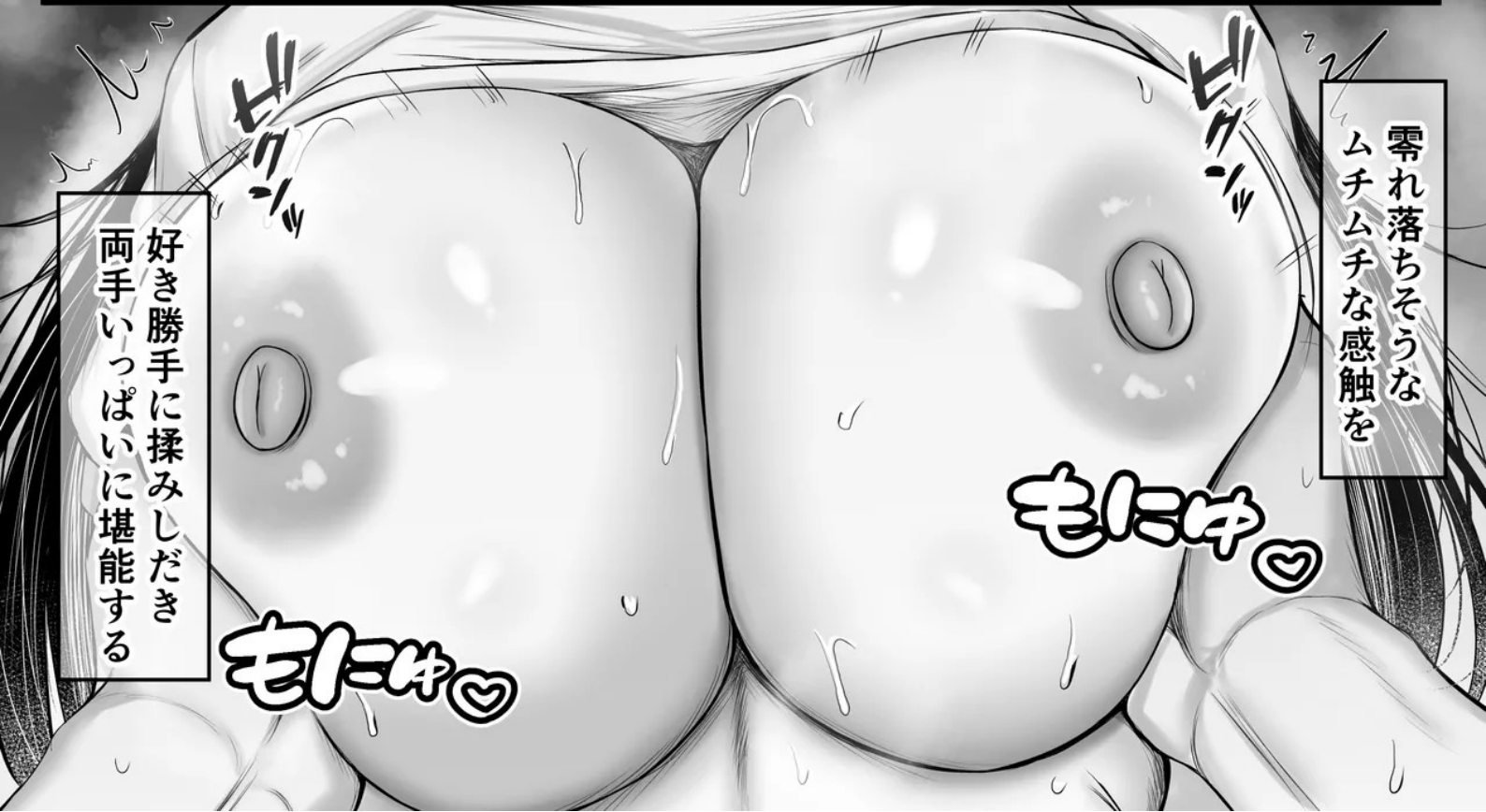
僕と同様に
一度の絶頂では
満足できて
いないのだろう



腰を振るたびに
揺れる特大の果实



それを前にジッと
していられるほど
僕の理性は強くない



零れ落ちそうな
ムチムチな感触を

好き勝手に揉みしだき
両手いっぱい堪能する

絶頂を迎えたばかりの彼女の身体はその刺激に大きく反応する

淫熱をおびた吐息は
その艶めきをさらに増し

再び全身が絶頂の高みに向けて震えだす





同時に今度は僕も
溜まりに溜まった欲望を
彼女の奥深くに注ぎ込む



粘膜と粘膜が
互いの脈動に
よって刺激し合い

僕たちは最高に
気持ちいい絶頂を
心行くまで味わった

ようやく昂ぶりが
落ち着いてペニスを
引き抜く



はっ♡

部屋中に満ちた濃厚な
淫臭が僕たちの行為の
激しさを物語っていた

ムっ♡

どっ♡

早く片付けないと
親が帰ってくるな

——なんて
思っていたのだが…



その心配は
一通の連絡で
杞憂に終わる

交尾★日記

無口なあの子は
ムチムチな僕の彼女

連絡は両親
からだった

急な残業で
今日は帰って
これないと

ザシッ

あ♡

その結果
どうなった
かというと

まあ♡

ザシッ

生まれたままの姿に
なって僕たちは
再び身体を重ねていた

じゃぽっ♡

じゃぽっ♡

じゃぽっ♡

じゃぽっ♡

じゃぽっ♡

あ♡

ん♡

じゃぽっ♡

一晩中なんの気兼ねもなく
エッチができるという
機会はそうそうない上に

普段以上に濃密な行為を
体験していた僕たちの興奮は
まだ冷めきっていないかった

彼女の奥深くへと
すっかり元気を
取り戻したペニスを
押し込む





前髪から覗く
彼女の瞳も

興奮に蕩け
切っている



それと同時に
汗ばんだ彼女の
ムチムチな身体も
思う存分に堪能する



もはやペース配分も
なにもない

興奮に突き動かさ
ただただ快感を
貪るように
腰を振り続ける

びゅん♡

まん♡

びゅん♡



様々な液体が混じり合い
ぐちよぐちよになった
膣内に萎え知らずの
欲望を打ち込み続ける

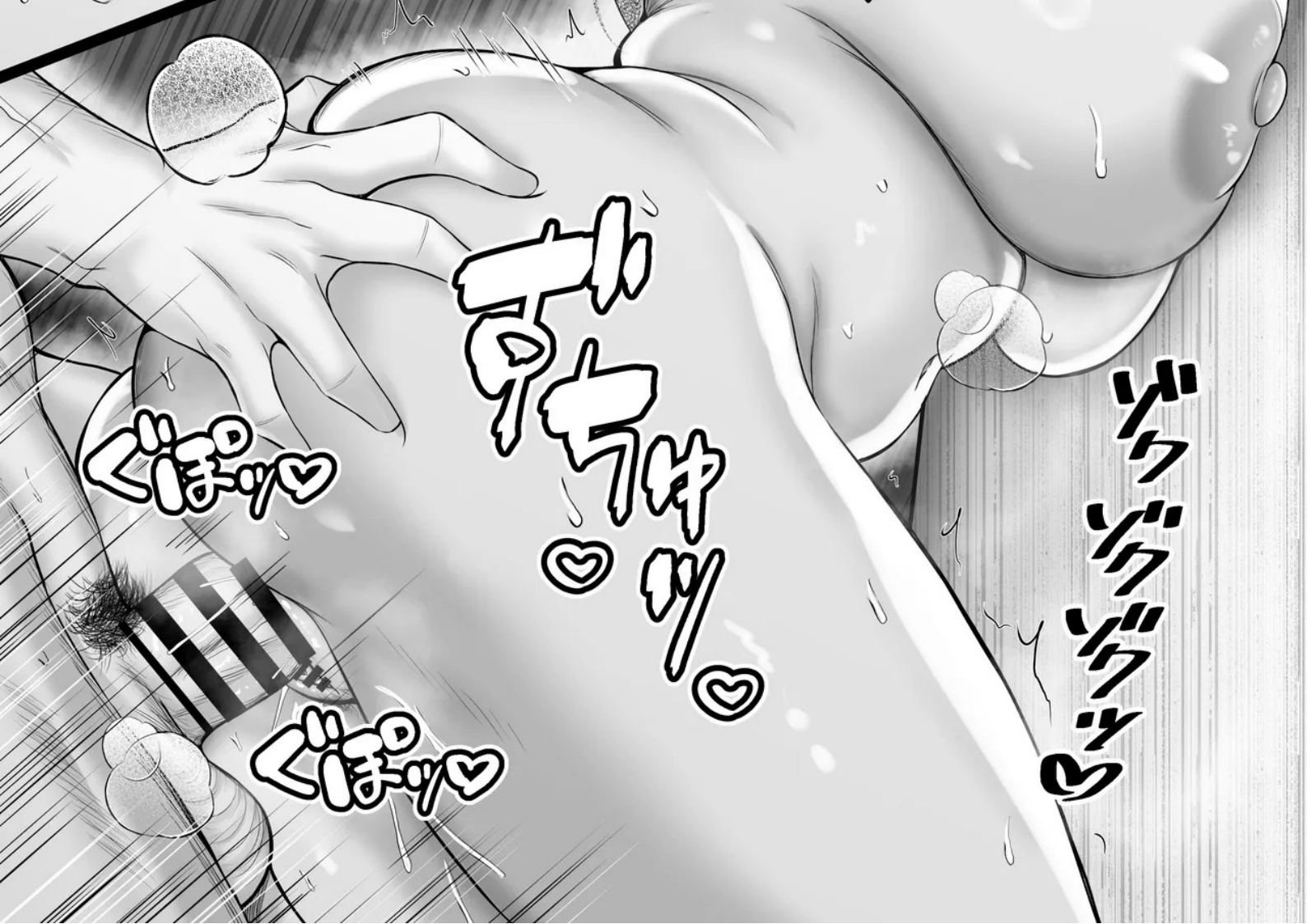
どっ♡

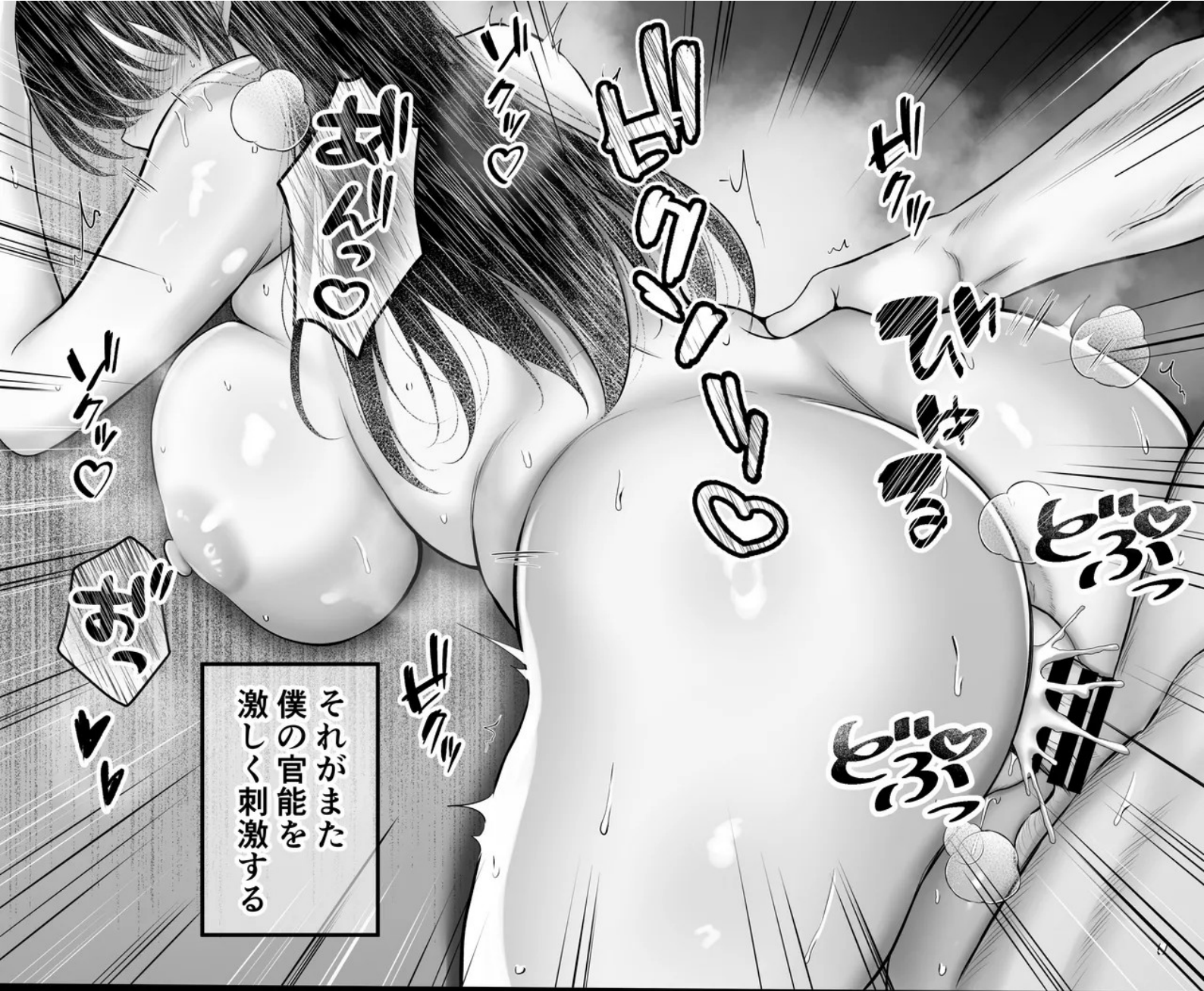


この生々しい行為は
セックスというよりも
交尾といったほうが
適当かもしれない



彼女の口からも
普段とは違う獣のような
下品な喘ぎが漏れる





正直体力的には
かなりしんどい状態なのに
どこから力が出るのだろうと
自分でも不思議で仕方ない

初めての体位に彼女自身も
困惑しているようだが
それ以上に多分僕自身が驚いている



経験したことのない
角度からの刺激に
彼女の身体が
絶頂に打ち震える



その刺激に誘発され
僕も再び彼女の膣内に
精液を解き放つ

もう何度目なのか
数えるのも億劫だ





—もう一回だけ

して？

断る——なんて
選択肢があるわけなかった

んおっ♡

おっ♡

おん♡

んおっ♡

んおっ♡

残り僅かな体力の全てを
絞りだし再び彼女のムチムチの
身体に覆いかぶさる

蒸気が立ち上るほどの
蒸れた湿度に包まれながら

互いにグチヨグチヨに
蒸れ合いながら

汗ばんだ身体を
必死に振るう

ぱん

ぱん

ふー

ぐち

ふー

ぐち

最後の快感に向けて
粘膜と粘膜を
擦り合わせ続ける

ぐち♡

ぐち♡

限界はもう
そこまで迫ってきていた

何度も繰り返す抽挿に
肉厚の膣壁がペニスに
絡みつinaながら打ち震える

むちゃ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

むちゃ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

次の瞬間
大きく彼女の口から
獣じみた喘ぎが
零れ落ちる

んっ♡

んっ♡

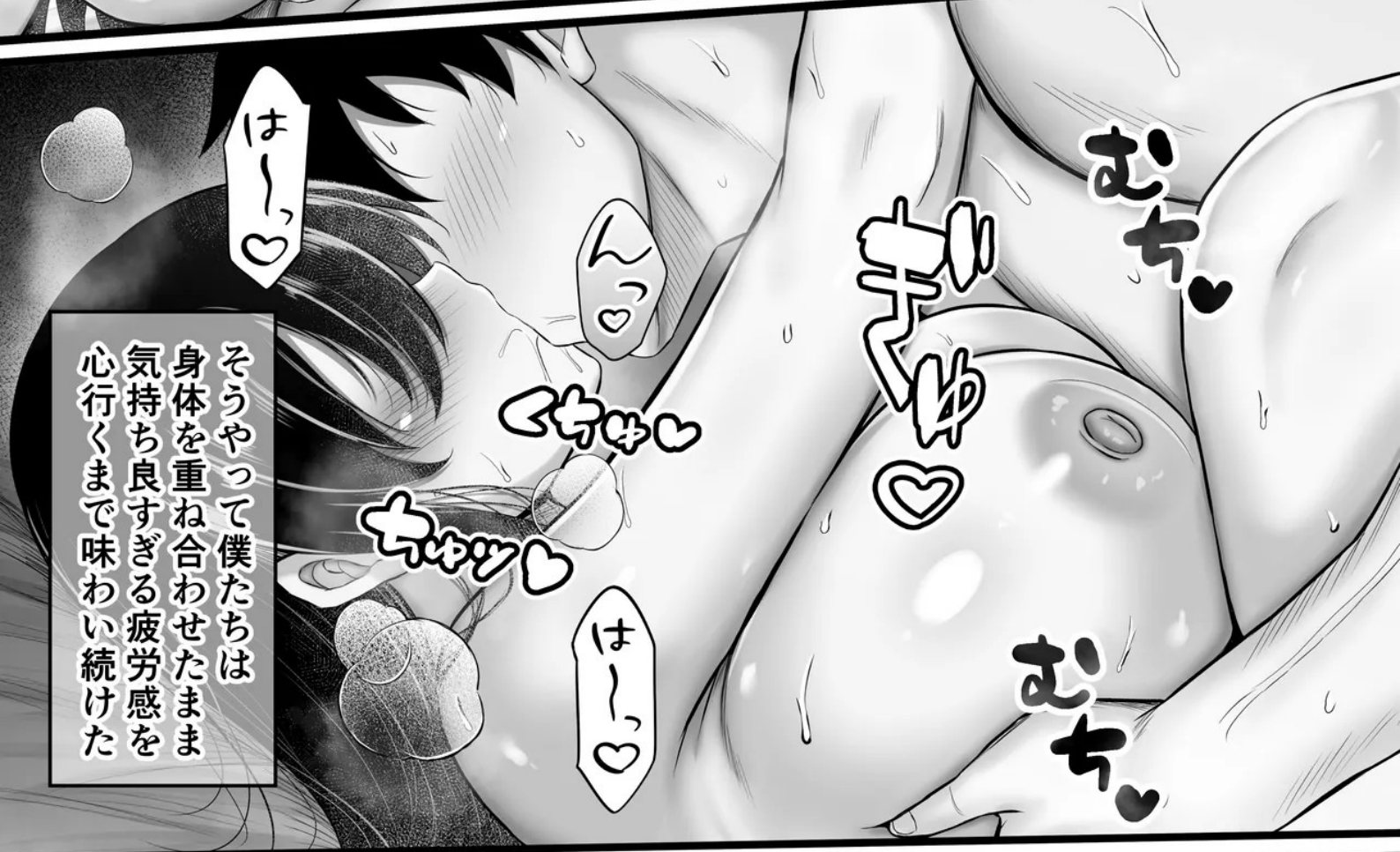
んっ♡

それを合図とするように
僕たちは今日最後の絶頂を
同時に迎えた

限界まで絞りだした
それは間違いなく
今日一番の快感だ



その快感を
彼女のムチムチな
感触を全身で感じ
ながら堪能する



そうやって僕たちは
身体を重ね合わせたまま
気持ち良すぎる疲労感を
心行くまで味わい続けた

これはそんな僕たちだけの
秘密の交尾日記の1ページ

交尾★日記

無口なあの子は
ムチムチな僕の彼女

今日は変わった
コスプレをしてもらった

彼女も興奮
しているのか

ムフムフ

ムフムフ

蒸れた雌の淫臭が
普段よりも
色濃く香り立つ

物欲しげに瞳を
潤ませながら
甘い吐息を漏らす
彼女の姿に

はー♡

はー♡

僕の下半身は
急激に熱を
帯びていった

ピチピチのラバースーツが
彼女のムチムチの身体を
より強調させる

むちゃ♡

むちゃ♡

ムキ

ムキ

ムフムフ

彼女の膣内は驚くほど
潤いに満ちていた

普段よりも感度が
いいのか一突きするたびに
全身が大きく打ち震える

それによって僕の
ペニスも刺激され
自然と腰の動きが
激しくなっていく

グチヨグチヨに濡れた
ムチムチの膣壁が
たまらなく気持ちいい

あつという間に
限界は訪れた

快感が全身を駆け巡り
僕たちは同時に絶頂の
高みへと達した



それは不思議なことに
普段の何千倍もの
快感に感じた

ゾクゾク♡

はー♡

はー♡

ゾクゾク♡

ゾクゾク♡

ゾクゾク♡

まいあゝ♡♡♡

どろ♡♡

今まで味わったことのない
未知の刺激をもう一度
味わいたくて僕たちは
その後も気を失うまで
交尾を続けた――…

発行日:2026年1月

発行者:カナ(サークル水面月)

X(Twitter): @kE6NuSnJcuHWbDA



pixiv: 37962341



この物語はフィクションです。

18歳未満の購入、閲覧、所持を禁じます

本作品の無断複写・転載・インターネットへの
アップロード・AI学習を禁じます。

© 2025 カナ



